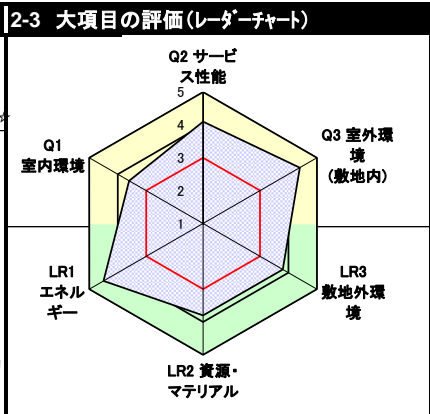
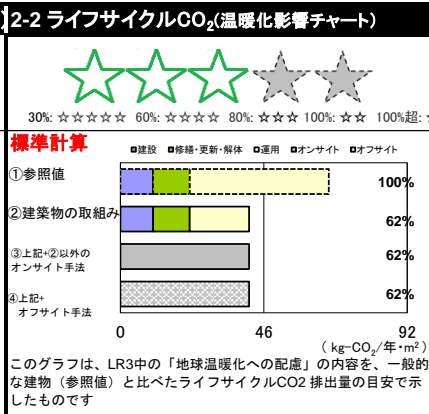
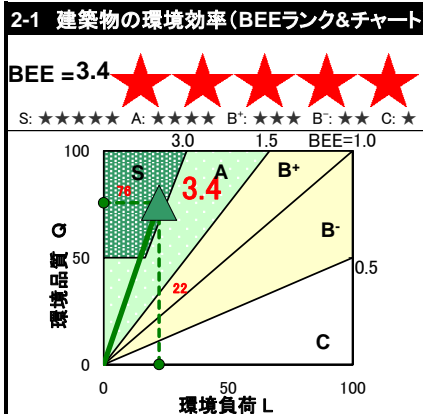
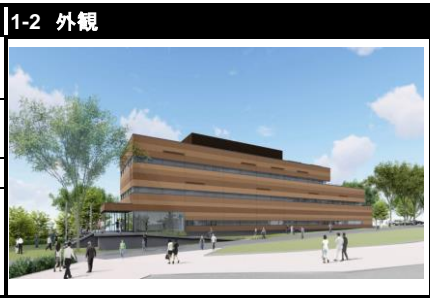


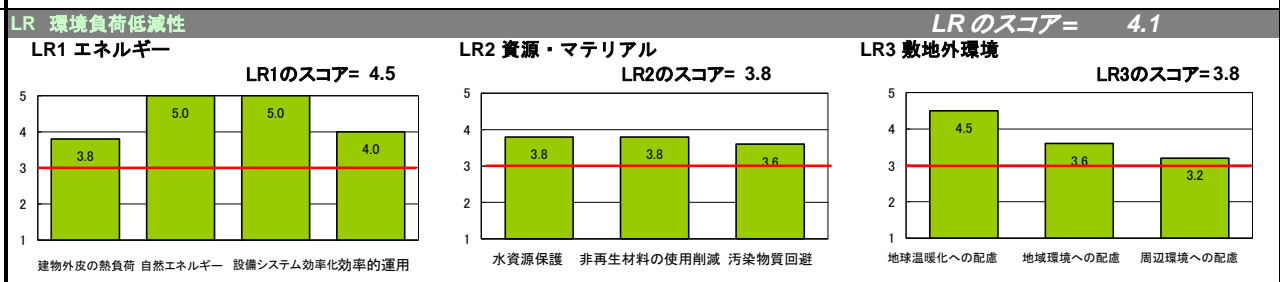
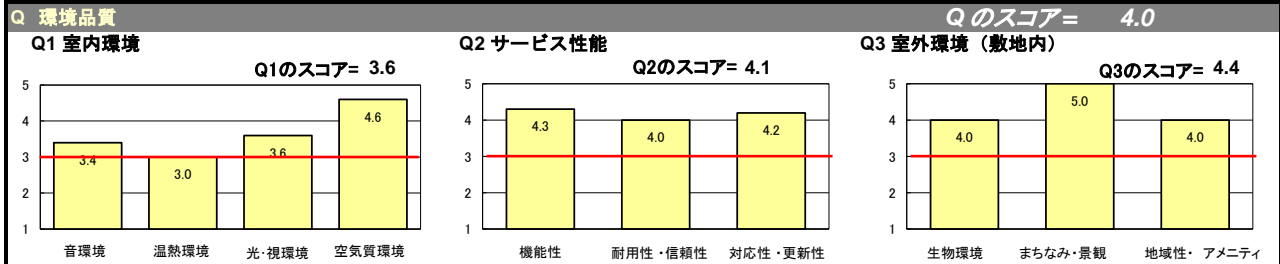
1-1 建物概要

建物名称	東京農業大学厚木キャンパス実験・実習棟
建設地	神奈川県厚木市船子1737
用途地域	第1種住居地域・準防火地域
地域区分	6地域
建物用途	学校
竣工年	2019/6/30 予定
敷地面積	2,296 m ²
建築面積	879 m ²
延床面積	2,301 m ²

階数	地上3F
構造	S造
平均居住人員	480 人
年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
竣工の実施日	2018年8月31日
作成者	株式会社竹中工務店東京一級建築士事務所
確認日	2018年8月31日
確認者	株式会社竹中工務店東京一級建築士事務所



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>天と地をつなぐ農の学び舎として、教員と学生との知識の積み重ねと、横のつながりを表現している。キャンパスの核となる外部空間「アグリアゴラ」と一体化するラウンジにより、教員と学生の学びや外部への情報発信を活性化させる。</p>	<p>その他</p> <p>建設工事においては、廃棄物削減・リサイクルに積極的に取り組んでいる。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>高品質な食品加工技術を学べる施設を実現している。環境教育に資する省エネ技術を展開し、ランニングコストも低減。明るさセンサーや人感センサーを用いた照明制御を積極的に展開し、省エネルギー及び快適性を両立させている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>学生、教職員への安全性に配慮した、建築構造の安全性確保と、危険な部位を造らない建築計画とする。障害の有無を問わず、安全にかつ安心して施設を利用できるようにバリアフリー化する。1階実習室天井内はISSとし、天井内でのメンテナンス及び更新等を可能にしている。また2.3階実験室は直天井としメンテナンス性の向上を図っている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>主要動線となる正門からのアプローチと、他建物とのつながりを考慮した機能的かつ既存環境との調和に配慮した配置計画とする。新たなキャンパスゾーニングの形成と、キャンパス全体のまとまり感を創出する。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>自然換気利用や井水による室外機散水等の省エネ技術の導入だけでなく、実運用に合わせた機器能力の設定等により、高い省エネルギー性を確保している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>Low-Eガラス、断熱性の高い外装材を採用することで熱負荷を低減する</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>自然環境との共生を図りつつ、明るく、健康的で学生が意欲的になれる快適な環境を確保している。また、騒音や臭気等にも配慮し近隣を含め快適な環境を実現している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される